

倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議

第3回 人口保持部会 議事要旨

日時：平成27年7月3日午前10時～

場所：議会会議室（市役所庁舎3階）

1 開会

(欠席者) 福井(恒)委員、松田委員

2 各部会での検討・協議について

【資料】

資料1：倉吉市人口ビジョン(案)

資料2：倉吉市の人口ビジョンの方向性(案)、倉吉市未来いきいき総合戦略の方向性(案)

資料3：「人づくり」を未来いきいき総合戦略の全てに共通する視点体系(案)

資料4：倉吉市未来いきいき総合戦略 しごと・ひと創出体系(案)

資料5：第2回各部会議事要旨

美船総合

政策課長

(意見交換)

山脇委員

多田委員

中山委員

- 資料1～4の説明。

- 資料3「子育て世代の負担軽減など、安心した子育て環境の提供」に関して言うと、これまでの施策内容は経済的支援に関するものが多かったように思う。子育てママにとって経済的支援も大事であるが、子育てママが時間的ゆとりを持てるようサポートできる方法は考えられないか。例えば、子育て支援センターでは短時間の預かりをしているが、予約が必要である。予約なしでも1～2時間子供を預ける事ができれば、急な予定に対応しやすく、息抜きもできると思う。

- 示されている施策例は、人を呼び込む上で倉吉の特徴を表したのかと言うと、インパクトに欠けると思う。
- 智頭町や、日南町、兵庫県西粟倉村などでは、近年社会増となっている。例えば、兵庫県西粟倉村では、Iターン者への起業支援をしており、木を使った製品づくりなどを通じてIターン者による起業が増加している。このようなことから、人が人を呼び込む好循環が始まっている。ここでは、行政や村民が地元存続のための危機感を共有し、“村には森林資源を活かしていく他ない”という揺るぎない方向性を「100年の森構想」(木・森を活かすことで活かされる)として打ちだしている。倉吉でもこのような明確な方向性を打ちだす必要がある。

- 倉吉は、「住みよさランキング」(2015年 東洋新報社)の“安心度”の観点で今年も1位となっている。これは、医療や福祉、介護、育児などの観点で評価されるものだが、これらの評価を高めることは一朝一夕でできることではなく、今後のニーズとしても伸びていく分野でもあるので、倉吉の強みと

なる「資源」として積極的に打ちだしていくべきだと思う。

桑原委員

- ・ Iターン者の立場で、実体験をもとに言うと、どこに移住しようかと考えていた時、智頭町は自然が豊かで、関西から比較的近く利便性があり、町長と住民との距離が近いことなど、小さい町だが何かと過ごしやすい町だと感じた。なので、当初は倉吉ではなく、智頭町に移住する予定であった。倉吉でも、関金のような地域がこのような魅力を発信できれば良いと思う。
- ・ 高知県高知市の土佐山（旧土佐山村）に、“土佐山アカデミー”というNPO法人があり、地域資源を活かし、新たな出会いやアイデアを育む学びの場を提供しているが、次の100年を見越した計画のもと活動をしている。
- ・ それぞれの町でそれぞれの特徴があるので、倉吉全体で1つとするより、例えば、「関金では〇〇！」など地域のウリとなるものを打ちだしていくことも必要だと思う。

多田委員

- ・ 倉吉でも智頭町のように、町長によるきめ細かな対応や、長期ビジョンを打ちだすなどにより、“わかりやすい町づくり”が必要であると感じる。
- ・ 倉吉の13地域すべての特徴を拾ってそれぞれの重点P Jを打ちだすとなれば、それこそ多すぎてまとまらないように思う。「関金では〇〇！」、「中心市街地では〇〇！」のような形で重点PJを打ちだす必要があると思う。

桑原委員

- ・ Iターン者は、移住先の情報を総合的に判断して決めるとは思うが、詰まる所「縁」の要素も大きいと思う。訪問先がたまたま「良い季節だった」、「天気が良かった」、「仕事が運よく見つかった」、「親切な人が対応してくれた」などのタイミングによるところが大きいと思う。

山脇委員

- ・ 桑原委員のように、“敢えて” 不便な地域（自然豊かなところ）を求めて移住したいと思う人は増えていると思う。
- ・ 倉吉は保育所が多く、待機児童がいない。また、保育所は地域にあってこそのもので、遠くになればなるほど、親の負担は増える。このような条件が満たされていると、親として非常に心強い。

山下委員

- ・ 米子などと比較して、倉吉は子育てしやすい環境でうらやましいなどと友人から良く聞く。実際私もそのように思うので、「子育てしやすいまち」としてアピールしていくべきだと思う。

荒瀧委員

- ・ 人口が増えている事例をまずは知りたい。そこから参考になるアイデアが出てくると思う。

中山委員

- ・ 6月28日に八頭町にて「地方創生フォーラム」があり、石破大臣も出席されていた。他にも若狭鉄道の社長やIターン者、梨生産農家、八頭高校などが出席されていた。石破大臣の講演を要約すると、「日本では大量消費の時代が終わり、東南アジアへシフトしてきている。日本は次のステージにシフトする必要がある。日本ではこれまで、観光や農林漁業などに力点が置かれていなかったため、逆に伸びしろがあると捉えるべきである。また、他国と比べ、日本ほど木を切らない国はない。」といった内容のお話をしておられた。また、オーストリアでは、脱原発の代わりに森林資源を活用することを打ちだしている。

- ・ 「地方創生フォーラム」を踏まえて感じたことは、倉吉には赤瓦や白壁、古き良き商店街などがあり、この良さを活かしていければ良いと思う。また、都会の40代の男性の約半数が田舎に住みたいと考えているとの調査結果もあるようなので、その受け皿となるように施策を考える必要があると思う。鳥取市までの交通の便がさらに良くなれば、鳥取に通勤できるベッドタウンにもなり得る。
 - ・ 若狭鉄道社長の話で、圏域連携の考え方（行政区域を超えた取り組み）で進めていく必要がある、ということが印象深かった。
- 桑原委員
- ・ 資料③に「移住希望者へ魅力を伝え、あたたかく迎え入れる体制を推進」とあるが、移住希望者にもっとリアルな地域の情報を伝えられれば良いと思う。というのは、私自身がこちらに移住してきて初めて「倉吉は子育て王国だ！！」と気づいたからである。支援センター「おひさま」では常時3～4人のスタッフが付きっきりで対応してくれ、大阪での現状とあまりにも違うことに驚いたものである。
 - ・ このような体験から思うのは、倉吉の各保育施設について、どんな点を重視してどんな対応をしているのか（何がウリなのか）について、体験したママの視点で移住希望者に発信できれば、都会に住むママは自然と倉吉に移住したいと思うはず。
- 多田委員
- ・ 桑原委員のような方が都会のママに発信できれば、とても説得力があると思う。市と連携して情報発信していけば良いと思う。
 - ・ 具体的には、都会で開催される「移住相談会」に桑原委員のような“実体験者”が参加してもらえればリアルな話が移住希望者に伝わると思う。「子育て王国」の中にこのような取り組みを入れていけば良いと思う。
- 中山委員
- ・ 鳥取県は、最近でこそ“鬼太郎”や“コナン”、“砂丘やスナバカフェ”などうまくPRしていると思うが、これまでPR力が弱いとされてきた。このように、斬新なPRの方法を打ち出すには、よそ者や若者などを集めてワークショップをする必要があるのではないか。
- 多田委員
- ・ 社会増の話で言うと、教育がとても重要だと思う。例えば、父親が自分の仕事（農業など）に誇りを持ち、その背中を見ながら育った子どもは、たとえ進学や就職で倉吉を離れても後から戻ってくるものである。このような教育を受けた子どもでないと、一旦倉吉を離れると将来戻ってこないと思う。都会に出ることは悪い事ではないが、倉吉の良さを教えぬままに都会を進めていたりはないだろうか。
- 総合政策課長
- ・ 他の部会での話で、Uターンするかしないかは、“親や家族が好きかどうかで決まる”との話もあった。
- 山脇委員
- ・ 一度離れたふるさとに帰ろうかと考えたとき、ふるさとに友人や知り合いなどがいるかどうか、自分を受け入れてくれる雰囲気なのかが決め手になると思う。
 - ・ 山陰の中でも「天災が少ない」のが倉吉だと思う。また、米子や境港と比べ原発のリスクも少ない。この点は倉吉の強みではないか。

- 桑原委員
 - ・ I J Uターンの他に「孫ターン」もある。これは、お盆や正月など実家に帰省した時に、祖父母に大事にされるなどの経験から、孫が祖父母のところに移住することを言うもの。
- 中山委員
 - ・ 倉吉には、「バルコス」(バッグをはじめとしたファッション商品を製造・販売)があるが、従業員のほとんどが東京などからのIターン者である。倉吉に事業所を置く意義としては、倉吉ではデザインのみを担当しているが、倉吉だからこそ今のデザインが生み出されている事が大きい、という話を聞いた。
- 山脇委員
 - ・ A I R (アーティスト・イン・レジデンス) ※が開催されているとのことだが、アーティストが倉吉の良さを発信すれば、行政が発信するよりも違う人・地域に波及効果が生まれると思う。

※国内外からアーティストを一定期間招へいして、滞在中の活動を支援する事業。日本においては、1990年代前半からA I Rの関心が高まり、地方自治体やNPOがその受け皿となって取組むケースが増えてきている。(参考：A I R_J 日本全国のアーティスト・イン・レジデンス総合データベース)
- 中山委員
 - ・ 鳥取銀行では、県外の各支店において、倉吉へのI J Uターンに関する情報発信や相談窓口を設置している。このように、県外に支店を有する他社にも広がっていけばと思う。

3 次回の開催について

- ・ 日程：7月22日(木)10:00～を予定。
- ・ 次回は、市民対話集会において市民に示すための骨子を確認いただく予定であるが、今後も随時意見等あれば示してほしい。

倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議
第3回 経済の発展・成長部会 議事要旨

日時：平成27年6月23日 10時00分～
場所：議会会議室（市役所本庁舎3階）

1 開会

※欠席者なし

2 各部会での検討・協議について

【資料】

資料1：倉吉市人口ビジョン（案）

資料2：倉吉市の人口ビジョンの方向性（案）、倉吉市未来いきいき総合戦略の方向性（案）

資料3：「人づくり」を未来いきいき総合戦略の全てに共通する視点体系（案）

資料4：倉吉市未来いきいき総合戦略 しごと・ひと創出体系（案）

資料5：新聞記事「創るスマートビズ 商品開発のノウハウ活用 スポーツ施設運営（ミズノ）」

資料6：第2回議事要旨（人口保持、経済の成長・発展、人の活躍、地域づくり）

追加資料：麻田委員の提案資料

資料①～④について、総合政策課 毛利企画員から説明を行った。

- 吉田（圭）委員
- ・ 資料3について、とても良くまとまっていると思う。
- 田村委員
- ・ オリジナリティに欠けるように思う。例えば、子どもに特化した人材育成などを重視してほしい。
- 栗原委員
- ・ 倉吉を農業のまちとするならば、「アグリキッズスクール」や、小中学校に「農業科目」を設置することなどが考えられる。
- 麻田委員
- ・ 資料1の1ページに移動数（転出と転入の差分）を表したグラフがあるが、進学や就学によるものと考えられる転出はみられるものの、30歳代以降は移動数が0付近で安定している。これは、倉吉が住みやすいことを表しているのではないか。
 - ・ 施策の一つとして、「不妊治療費免除」などどうか。
 - ・ 既に多くの施策案があるが、限られた予算の中で、どの施策に重点を置くかを検討することが本部会の意義ではないかと思う。よって、資料3に示されている施策をどのように強弱をつけるかを検討する必要がある。
- 吉田（孝）委員
- ・ 6次産業化などを事業化する際の金融支援策として、ファンドを活用した制度を構築しているところである。このような取組を倉吉でもできたらと思う。
 - ・ 起業をする際のサポートはもちろん必要であるが、それだけでは長く続かない。サポートする体制として、行政だけではなく、まち全体でサポートする体制づくりが必要であると感じている。このような文言を、資料4「起業者支援とサポート体制の充実」の項目に追加してほしい。

- 岩本企画振興部長
- ・ 吉田（孝）委員の言われたことは理解できる。まち全体での体制づくりとして、情報提供や課題の共有をしながら協働でやっていきたいと思うので、金融機関にも協力をお願いしたい。
- 名越委員
- ・ 「観光と農業のまち」など、観光と農業、文化などを関連付けたものを考えてほしい。
 - ・ 衰退した他地域の事例（愛媛県川之江市）をあげると、医療と教育の衰退が原因であるとの情報があった。特に県立病院がなくなったことが大きいようだ。倉吉市においても、県立病院をなくさないように施策を打ってほしい。また、市内に婦人科はいくつかあっても、産科は2か所しかない点も不安である。
 - ・ 資料3の「子どもを持つ喜びを感じられる」というフレーズは、とても良いと思う。子育ては大変だが、育ててみるといつの間にかそれが生きがいとなっている。これをまだ子どもを持たない世代に伝えていければ・・・。
 - ・ 若い女性が移住しやすい施策があればと思う。
 - ・ 「コンベンション」は人材さえいれば実行可能である。倉吉観光マイルス協会などの予算を倍増してもらえば対応できるので、進めて欲しい。
- 名越委員
- ・ 資料5（新聞記事）による提案
 - ・ スポーツ用品販売のミズノは、1989年以降、商品開発のノウハウを活かしたスポーツ関連施設を運営しており、現在全国で140件の実績がある。地方自治体などが管理する公共スポーツ施設の運営委託も手掛ける。強みは、ミズノが契約している有名スポーツ選手を起用したイベント開催や、子どもを対象にした教室などとなっている。
 - ・ このような実績を踏まえると、倉吉においても、この取組を誘致する効果は大きいと考えられ、ぜひ検討してほしい。
- 麻田委員
- ・ 追加資料による提案
 - ・ 【農業】について、ブランド化により輸出を拡大させ、農家にお金が落ちる仕組みにする必要があると思う。また、「オーガニック村」をつくり、ブランド化、健康、観光と関連して複合効果が期待できる。
 - ・ 【産業】について、「倉ビズ」による起業などへの支援を進める。特区申請による規制緩和を利用し、倉吉だからこそできる取組に挑戦する。輸出入に対し、事務的・金銭的支援を行う。中心市街地活性化策として、赤瓦を導入した新築に対し補助をし、景観に統一感を持たせ、「日本でいちばん、日本らしいまち」を目指すなど。
 - ・ 【ふるさと納税】について、フィギュアファンによる「桜ミク」効果が大きかったが、納税額を地域課題解決型の施策に活用し、倉吉の魅力をアップさせる。そして、フィギュアから倉吉ファンとなった納税者を「準・市民」として位置づけ、その方たちへ準・市民カードを発行し、移住候補者としてリストアップする。準・市民へのロイヤリティを高め、最終的には市民になってもらえるよう働きかける。
 - ・ 【地域クラウドファンディング】は、倉吉を良くするためのアイデアを持っている人を、直接支援できる仕組み。支援者は市民だけでなく、準・市民も想定

しており、これにより、アイデアが実行しやすくなり、支援者も共感・協力しやすい体制となる。

- 吉田（圭）委員
- ・ 麻田委員から、輸出入に対する支援への発言があったが、輸出には規制があり、簡単に個人が輸出できない状況である。倉吉の良さを海外に発信しながら、海外のものを取り入れることは重要であるため、輸出入に関する知識を習得するために支援が必要である。
 - ・ 別の委員からの発言にもあったが、「子どもを持つ喜び」について、人生観を強要するわけではないが、周知していくことは大いに共感している。同時に、女性の出産や子育てがいかに大変で責任のあることなのかも伝える必要があると思う。
- 安田委員
- ・ 子どもを親や祖父母にみてもらう時、子育てをしている世代とその親世代（または祖父母世代）では、子育てに対する常識が非常識となることがあり、子どもに何をされるかわからないといった不安がある。よって、現在の子育ての常識を学んでもらう場を設け、学習してもらうことで、安心して子どもを預けることができるようになると思う。
- 麻田委員
- ・ 子どもの教育環境について、昔は子どもが多く、厳しく教育するような風潮があったと思うが、現在はいかに大切に育てるかといった風潮となっているように思う。これらの教育方針の違いをマッチングさせることも必要だと思う。
 - ・ ある分野について、倉吉だからこそできる尖った施策をモデル事業として国に打ちだせば、大きな支援を得られ、うまくアピールすることもできるのではないか。
- 加藤委員
- ・ 関金温泉を活用した観光振興を考えた場合、温泉を医療に応用する方法はないか。
 - ・ 智頭では、「智頭杉」として木材のブランド化がされているが、倉吉にはそのようなブランド材がない。しかし、倉吉地域（1市4町）では、22,000haの森林が森林認証を受けている。今後、公共施設への国産材使用など、認証を受けた木材の需要が高まっていくことが予想されるため、森林認証をブランドとして売り出していけるものと考えている。
- 岩本企画振興部長
- ・ 将来人口推計では、欠けている世代（若者や子どもなど）を取り戻す必要があることがわかる。
 - ・ 様々な施策があるが、その中で尖った施策がいくつかあれば良いとの考えを市長は持っており、麻田委員のような具体策があれば必然的にまとまっていくのではないかと考えている。
- 麻田委員
- ・ 木を使った家具づくりをし、販売まで行っている知り合いがいるが、木材を担保に融資を受けることはできれば、との発言があった。そのような事ができるのであれば、木材をストックしていき、資産として運用する方法も考えられる。

3 次回の開催について

- ・ 日程：7月16日（木）10:00～を予定。
- ・ 次回は、市民対話集会において市民に示すための骨子を確認いただく予定であるが、今後も随時意見等あれば示してほしい。

倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議

第3回 人の活躍部会 議事要旨

日時:平成27年7月1日午後13時30分～

場所:議会会議室(市役所本庁舎3階)

1 開会

(欠席者) 山根委員(代理で中村氏が出席)、桑垣委員

2 各部会での検討・協議について

【資料】

資料1:倉吉市人口ビジョン(案)

資料2:倉吉市の人口ビジョンの方向性(案)、倉吉市未来いきいき総合戦略の方向性(案)

資料3:「人づくり」を未来いきいき総合戦略の全てに共通する視点体系(案)

資料4:倉吉市未来いきいき総合戦略 しごと・ひと創出体系(案)

資料5:第2回各部会議事要旨

- | | |
|-----------------|---|
| 向井部会長 | ・ 第3回の人々の活躍部会を始める。総合政策課から人口ビジョン、総合戦略について、その後各課からの説明がある。 |
| 中村委員 | ・ 次回から新支店長が委員として部会に出席する。今回の部会には新支店長の代理として出席。島根県松江市出身で、「未来手育成塾」の2期生。 |
| 毛利企画員
(意見交換) | ・ 資料1～4の説明。 |
| 竹尾委員 | ・ 倉吉西高校と倉吉市立西中学の生徒会と連携し、アンケートを実施する。アンケートは作成中で、内容について市と協議し進めていく。 |
| 山田委員 | ・ 倉吉東高校学園祭でのプレゼンテーションコンテストにて「高校生が描く新しい明日」として、新しい社会のグランドデザインの発表があった。高校生の視点からの提案に視野を広げてもらった。このような視点を大切にしていきたい。
・ 地方創生について、短期的な視点だけでなく中長期を見据えた政策が大切だと思うが、そこに対する財政支援があるのか教えていただきたい。
・ 第2回目部会までの部会での意見・提案内容をうけて総合戦略に盛り込まれているものとそうでないものの理由について教えていただきたい。(盛り込まれていない例 サイクリングコースの設置など)
・ 「雇用の質向上」については資料3で言及しているが、国のパンフレットを見ると「正規雇用」を言及しているため、倉吉でも加筆してほしい。
・ テレワーク(在宅勤務)についてはワーク・ライフバランスの中で新たな働き方として盛り込んでほしい。
・ ワーク・ライフバランス、男女共同参画を推進するため企業への認定制度(施策)を検討してほしい。(例:くるみんななど) |
| 三船課長 | ・ 中長期視点での財源確保について考えていく必要がある。 |

- ・ 「正規雇用」の明文化については検討していく。
- 森石課長
 - ・ 第2回部会までで議論してもらったすべてのものについて施策として取り入れることは財源的に難しい。「倉吉らしさ」を具体的な施策として出していけるものを入れ込んでいきたい。
- 杉山局長
 - ・ 企業に対する認定制度では、2015年2月から表彰制度を導入した。また、「くるみんマーク」の認定を受けた企業もある。ワーク・ライフバランス、男女共同参画については、今後も推進していきたい。
- 中村委員
 - ・ 女性の活躍の場について若いうちから考えていく機会を持つていくことが大切だと思う。
 - ・ UIターン者については、なかなか県外から来ない現状がある。関西よりも関東からの移住が少ない状況を踏まえ、関東圏に住んでいる人に向けて倉吉への移住促進を注力していくような取組があってもいいのではないかと。
- 山根課長
 - ・ 今の若者世代では男女にかかわらず、「個人」として評価を受けることが当たり前の世代になりつつある。その分、特性に応じて社会で活躍できる受け皿の改善が必要になる。
- 竹尾委員
 - ・ 骨子案での「地の利」を活かした食・農林水産業などについて、より目を引くような工夫がほしい。
 - ・ 21世紀は女性の時代、マーケット対象も女性が多い。公の場でも女性の意見が発揮できるような環境づくりが大切になる。
 - ・ 6次産業化・ハード整備について、具体化していくなど整理する必要がある。
- 尾崎委員
 - ・ 女性に対する教育では、学校教育以外の場も含めた多方面での教育環境が大切。「女性の能力を活かす場」と「活かせる環境」が必要になる。
- 竹尾委員
 - ・ 現状として、健康診断の受診率が県内最下位であり、受診額の補助など受診機関へ行きやすい工夫が必要に思う。
- 大西保健
センター所長
 - ・ 年齢を絞るなどして市民の声を聞き、低受診率の問題点を洗い出したい。
- 岩世委員
 - ・ 仕事との兼ね合いなど、受診の時間作りが難しい。企業への呼びかけをすることで、受診率を高めることができるのではないかと。
- 杉本委員
 - ・ 倉吉市の規模だと、「個」を大切にしやすいのではないかと。人を育てる、女性を育てるということは、ひとりの「個」を大切に育てていくことなのだと思う。
 - ・ 成長・発達段階に合わせたキャリア教育の内容を再整理することも大事だと感じる。
- 長井課長
 - ・ 学年に合わせて、地域教育・地域づくりに関する教育が大切になってくる。
- 山脇館長
 - ・ 図書館では、中・高生向けのヤングアダルト・コーナーを設置し、仕事に対する具体的なイメージを持ってもらいやすいコーナーづくりに力を入れている。
- 竹尾委員
 - ・ 倉吉として「日本一」を誇れるものがいくつあるのかという視点から、施策に盛り込んでいけるといいのではないかと。
- 岩世委員
 - ・ 防犯に関して、地域で一体的に取り組めるような案がほしい。

- 岩本部長 ・ 防災についてはあるが、地域づくり部会では、自主防災組織の運営、商店街再活性による防災意識の向上などが話しに出ている。
- 杉本委員 ・ もう少し具体的な目標がほしい。避難所の整備についてはどのような状況なのか知りたい。
- 岩本部長 ・ 市の防災については、防災計画の中でマニュアル化されている。
- 竹尾委員 ・ 自主防災組織をつくることに関しては、市から出る補助金によってサポートされる。自主防災組織によるハザードマップ作成も市から推奨されている。
- 岩世委員 ・ 「防犯」に関しては、地域内での体制が必要と感じる。
- 岩本部長 ・ 今回の総合戦略では、「防犯」に関して対応しているものは現在のところない。
- 向井部会長 ・ 次回部会でも、引き続き配布資料内容についての問い合わせ、思いついた具体例など、どんどん出していただきたい。

3 次回の開催日程

次回の会議は、7月17日(金)15:00分～を予定

倉吉市未来いきいき総合戦略検討会議

第3回 地域づくり部会 議事要旨

日時：平成27年6月25日午前10時～

場所：議会会議室（市役所本庁舎3階）

1 開会

※欠席者なし

2 各部会での検討・協議について

【資料】

資料1：倉吉市人口ビジョン（案）

資料2：倉吉市の人口ビジョンの方向性（案）、倉吉市未来いきいき総合戦略の方向性（案）

資料3：「人づくり」を未来いきいき総合戦略の全てに共通する視点体系（案）

資料4：倉吉市未来いきいき総合戦略 しごと・ひと創出体系（案）

資料5：第2回各部会議事要旨

資料6：アイデア・意見等について（廣谷委員）

資料7：アイデア・意見等について（石村委員）

- 岩本部長
- ・ 第2回目までの各部会で検討・協議された内容を整理するなかで、どの部会でも「人づくり」の視点からの提案や議論が多く出されていた。それを受けて、倉吉では「人づくり」を総合戦略の共通視点とする。「これまで市が考えてきたもの」、「委員の方から出していただいた意見」、「市民アンケートなどによる意識調査」をもとに、より具体的に施策に反映させていきたい。「メリハリをどこに持たせ、どのエリアをターゲットとするのか」、「地域をどう磨き上げ、魅力的に発信していけるのか」という視点も必要になってくるのかもしれない。議論の中でも、このような視点を盛り込みつつ、さらに具体的な内容に触れていただきたい。
- 毛利企画員
（意見交換）
- ・ 資料1～5の説明
- 岩垣委員
- ・ 資料6の説明
- 大江委員
- ・ ウォーキングで地域づくりを促していこうということで、ウォーキングは世代に関係なく参加しやすいと感じる。
 - ・ 事業所ぐるみでのイベント参加によって、さらに盛り上げていけるのではないかな。
 - ・ 開催地としては、ある程度の来客数に対応できる駐車場の収容能力やアクセスのしやすい場所が必要になってくる。
 - ・ ボランティアとして、学生や看護師、各方面の専門家の参加も促していきたい。
- 倉繁委員
- ・ 「未来ウォーク」のような倉吉で開催されるイベントに、市をあげて取り組んでいきたい。

- 川村委員
 - ・ 湯梨浜町のウォーキングリゾートなど、他地域との連携も大切ではないか。
 - ・ 私がフルマラソンなどをしている経験から、距離を記載した道路標識の設置・整備による気軽に参加しやすい環境づくりが大切だと感じる。
 - ・ コースのスタート地点周辺の駐車場の有無やアクセスの良さが、利用者数に大きく影響するように思う。
 - ・ シャワーなどの設備が充実するもと、利用者にとってさらに使いやすさが増す。
- 岩本部長
 - ・ 「どのようなおもてなしが可能か」「そのための設備整備」については、観光課などで検討していく。ウォーキングによる地域づくりは、観光集客と健康増進の両面での効果が見込めることだと感じている。
- 岩垣委員
 - ・ イベントの周知と各方面・関係者への協力体制を考えていく必要がある。
- 岩本部長
 - ・ 「未来ウォーク」には全国から人が集まってくる。市内からの参加者についてもっと参加を促せると感じている。
- 石村委員
 - ・ 資料7の説明。
- 岩垣委員
 - ・ 高齢世代の活躍の場を、周知の徹底により広げたい。全国的に見ても、高齢世代の経験や知識を活用することでビジネス化に成功している例がある。
- 岩本部長
 - ・ 広報としかけによる周知の拡大を図りたい。また、活躍の場となる機会の提供にも力を入れていきたい。
- 岩垣委員
 - ・ 人材バンクについて、記載内容を増やしていくのはどうか。
- 岩本部長
 - ・ 現在のところ人材バンクの登録資格についての記載等はされていない。
- 谷田課長
 - ・ 現在、各地域のオーダーを受けて人材を派遣している。資格等の登録には至っていないが、各地域例えば北谷地区ではある程度、人材の把握ができていると認識している。
- 岩本部長
 - ・ 生涯学習課だけでなく他の課との協力体制、金銭面での調整なども含めて検討していく。
- 谷田課長
 - ・ シルバー人材センターは、利用者にとっては他業者に依頼するよりも安価で利用ができ、登録者は賃金を得ながら地域での活躍機会を持つことができる。
- 川村委員
 - ・ 配布資料の説明。
 - ・ 都市圏にある学習塾では勉強合宿を定期的に行っており、旅行会社を通さずに合宿場所を決定する場合も多い。中規模の人数が定期的を訪れることから、ターゲットとして注目してもいいのではないか。
 - ・ 周辺市町村との連携では、市町村間での訪問場所や利用宿泊先、飲食店など来客のバランスを考える必要がある。
- 岩本部長
 - ・ 川村委員から出していただいた意見に関しては、次回部会までに市の考えと照らし合わせ返答する。
- 大江委員
 - ・ 私が携わっている「体験型旅行誘致協議会」では、教育旅行に関してさらに絞り込んでターゲット、人数規模などを出していく必要があると考えている。
- 岩本部長
 - ・ 教育旅行については観光交流課と検討していく。

- 田中委員
 - ・ 今年度は「日本災害看護学会」が、鳥取看護大の主催で開催される。学会開催により、2,000～3,000人が2泊3日する。倉吉には、宿泊先としての受け皿がなく、交通も不便である。
- 岩本部長
 - ・ 「日本災害看護学会」開催に際しての詳細については、観光交流課と相談していただきたい。市内だけでは少し難しいかもしれないが、広域（中部エリアなど）にわたり連携することで、宿泊・交通の問題は解消できる。
- 西河委員
 - ・ 地域のPRにつながる、映像作成などに対する補助制度がなく、サポートがほしい。
 - ・ 「農地・ブランド化・空き家・再生エネルギー」をキーワードとして、活動を進めている。「農地」については、耕作放棄地を飲食店などのニーズに合わせた活用をすすめている。「ブランド化」については、倉吉の食（農産物）などの6次産業化に力を入れる。「空き家」については、地域活動の拠点として新たな役割を見出している。「再生エネルギー」については、地域規模に合った無駄の少ない循環型のエネルギー利用を考えている。
- 岩本部長
 - ・ 今年度、または来年度に実施したい項目は決まっているか。
- 西河委員
 - ・ 「再生エネルギー」に関する活動以外は今年度実施したいと考えている。
- 岩本部長
 - ・ 地方創生のなかでは、今年度予算はなく来年度以降の実施項目については、地方創生案に入れ込むことで予算を出すことが可能である。
 - ・ 「農地・ブランド化・空き家」については、今年度実施を希望ということで
- 岩垣委員
 - ・ 観光課と相談しながら調整・検討が必要になる。
 - ・ 西河委員からの意見に関しては、本日時間が無いので次回部会でも継続的に検討していく。
 - ・ C C R C (Continuing Care Retirement Community - 健康時から介護時まで継続的ケアを提供する米国の高齢者施設のコンセプト) について倉吉市としての考えをお聞きしたい。
- 岩本部長
 - ・ 内容を熟知したうえで、検討したい。また、検討内容についてお知らせしていく。

3 次回の開催日程

次回の会議は、7月13日(月)13:30～を予定